

(2) 対象地域

堺臨海部は、近年、グリーンフロント堺・J-GREEN 堺・堺太陽光発電所などが立地し、一定の利活用が図られてきました。今後は、残された未利用地や海域をこれら新たな資産と旧堺燈台等の歴史・文化資源を融合させつつ、更なる活性化（賑わい・憩い）を図ることが重要です。

本ビジョンは、以下に示す堺臨海部全域を対象とします。

また、以下の理由により、堺旧港及び周辺地域、堺浜及び周辺地域、堺第 7－3 区低未利用地、浜寺水路及び周辺地域を重点対象地域としました。



図 ビジョンの対象地域

※ 以降、堺旧港及び周辺地域を「堺旧港」、堺浜及び周辺地域を「堺浜」、堺第 7－3 区低未利用地を「堺第 7－3 区」、浜寺水路及び周辺地域を「浜寺水路」、その他の臨海部地域は「その他の臨海部」と称します。

＜重点対象地域の選定理由＞

➤ 堺旧港

堺旧港の親水護岸整備、復元された旧堺燈台や大浜公園の多様な歴史文化資源など観光資源を有しているが、中世以降のみなどの賑わいや昭和初期までの一大リゾート地としての面影がなくなっている。堺旧港に隣接した未利用の市有地が残され、都心近傍や海辺という立地特性、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に向けた取り組みや旧市立堺病院跡地で計画されている文化観光拠点との連携、多様な観光資源を生かした土地活用が必要である。また昔ながらの形状が保存されている堺旧港を活用して港の再興を図る必要がある。

➤ 堺浜

J-GREEN 堺、グリーンフロント堺、商業アミューズメント施設、基幹的広域防災拠点（海との触れ合い広場を含む）などの賑わい・憩い施設の立地が進捗、幹線道路の整備により市街地からのアクセスも一段向上。しかし、北泊地周辺には未利用地が残され、既存施設の更なる活性化に寄与、また連携した土地活用が必要である。また、人工干潟の整備が進むものの北泊地は広大かつ静穏な海域で大和川汽水域に位置しているが、深堀跡のため水質が依然と悪いことから、北泊地の水域利用、自然・水質環境の改善が必要である。

➤ 堺第7-3区

共生の森、堺太陽光発電所、エコタウン、みなと堺グリーンひろばなど土地活用が進むものの、廃棄物処分場またはその跡地としての制約などにより広大な未利用地が残され、既存施設の更なる活性化に寄与また連携した土地活用が必要である。また、親水性・景観に乏しい長大な消波護岸の利活用・環境改善が必要である。

➤ 浜寺水路

浜寺公園に隣接し、階段式護岸の整備が完了しているものの、親水性が不十分のため、公園来訪者が海辺に訪れることが少なく、深堀跡のため水質が依然と悪いことから、親水性の向上・水質改善が必要。また、阪堺電気軌道の利用促進の観点からも浜寺水路の賑わい創出などの活性化が必要である。

なお、上記以外の臨海部については「その他の臨海部」と位置づけた。

(3) 対象とする事項

一般に、臨海部には多様な機能（物流・産業・環境・交流・防災・住居など）が求められていますが、本ビジョンでは、海辺の憩いや賑わい創造、自然環境の再生・創造に焦点を当てることとしました。

- 環境再生・創造、土地活用に係るハード施策
（自然環境・親水整備、アクセス整備など）
- 賑わい創出や環境創造・市民活動促進に係るソフト施策
（交流・レクリエーションに係る事業者の誘致、イベントの開催、環境研究・学習・啓発活動・市民・NPO 活動の推進、低炭素社会・循環型社会形成に関連する施策提案、関係者への環境配慮などの提案など）

以上の施策により、市民や来訪者が主役となり、活動や体験を持続的に展開できる 21 世紀型の海辺をめざします。

なお、臨海部の有する機能のうち、物流・産業・広域交通・防災などの機能については、既定または今後策定予定の各施策と整合・連携を図ることとします。

(4) 対象者及び推進主体

本ビジョンにおける主な対象者及び推進主体は、以下のとおりです。

- 主な対象者
 - ・ 散策・レクリエーション・スポーツ・環境活動等で訪れる市民、NPO、子どもたち
 - ・ 近隣府県市等の国内からの来訪者・観光客
 - ・ 関西国際空港等を利用し、関西・堺へ訪れる海外からの観光客
- 主な推進主体
 - ・ 堺市
 - ・ 立地企業
 - ・ 国・大阪府・港湾管理者
 - ・ 土地所有者
 - ・ 大学・研究機関
 - ・ 進出事業者
 - ・ 市民・NPO
 - ・ 各種団体(自治会組織、漁業関係団体)

1.4 ビジョンの目標年次

本ビジョンは、概ね 20～30 年先の長期の堺臨海部のあるべき姿を示すものとしませんが、具体的な活性化方策については、堺市マスタープラン、都市計画マスタープランなど市の基本的な計画との整合を図るため、概ね今後 10 年間の施策を示します。

なお、策定後の社会情勢の変化などに対応し、適宜見直しを図るものとします。

2. 堺臨海部の課題・要請事項

堺臨海部の現状（強みと弱み）を認識し、上位計画・関連計画で示された今後の方向性、市民・NPO・各種団体等のニーズを踏まえて、堺臨海部の課題・要請事項を以下のとおりとりまとめました。

2.1 堺臨海部の現状（強みと弱み）

堺臨海部の特性を踏まえ、「社会活動」「生活環境」「自然環境」「地球環境問題」の4つの観点から現状を整理しました。

2.1.1 社会活動の観点

社会活動の強み・弱みから見た堺臨海部の現状は、以下のとおりです。

<強み>

- 堺旧港周辺地区は旧堺燈台や市内の文化財など多数の歴史・文化資源を有しています。



図 旧堺燈台



図 大浜公園内の歴史・文化資源（擁護霊、蘇鉄山、復元されたラジオ塔）

- 堺旧港、堺浜、堺第7-3区、浜寺水路に緑地・公園が整備され、特に堺浜の海とのふれあい広場、浜寺公園は来訪者数も多く賑わいがみられます。また、浜寺水路周辺地区に木造平屋建ての浜寺公園駅舎また、堺浜にはサッカーをはじめとするスポーツ・レクリエーション活動の振興を図ることを目的として、J-GREEN堺が整備され、年間約61万人の来訪者があります。



図 大浜公園



図 海とのふれあい広場



図 浜寺公園

- 堺旧港、浜寺水路においては、大魚夜市や堺旧港観光市場、ローズカーニバルなどの各種祭やイベントが実施されているほか、堺第7-3区では、共生の森の植栽活動などNPO・市民団体活動が実施されています。